※(　)内は1人あたり額。

収入	43億9,440万6千円(565,633円)	経常収入	39億7,993万7千円(512,284円)
支出	42億　23万1千円(540,640円)	経常支出	41億4,003万9千円(532,892円)
差引額	1億9,417万5千円(24,993円)	差引額	▲1億6,010万2千円(▲20,608円)

納付金の負担重く 経常収支1億6,010万2千円の赤字 となりました

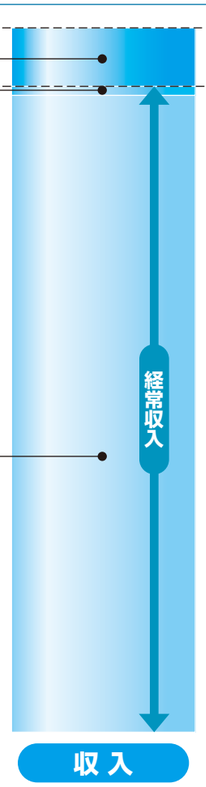
収支差引額 1億9,417万5千円(24,993円)

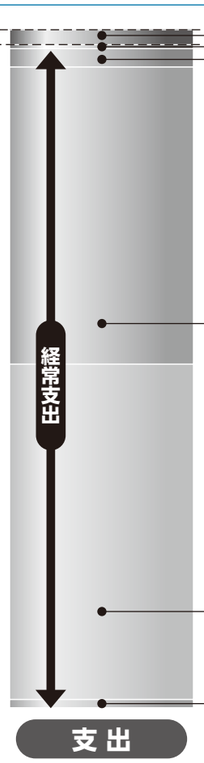
経常外収入 4億1,446万9千円(53,349円)

調整保険料収入	5,966万1千円(7,679円)
繰越金	1億8,000万円(23,169円)
繰入金	7,000万円(9,010円)
財政調整事業交付金	1億480万8千円(13,491円)

その他 2,145万1千円(2,761円)
国庫負担金収入や利子収入など。

保険料収入 39億5,848万6千円(509,523円)
毎月の給料や賞与から納めていただく、健保組合の主たる財源。





経常収支差引額 ▲1億6,010万2千円(▲20,608円)
臨時的な収支を除いた単年度の実質的な財政状況を示す。

経常外支出 6,019万2千円(7,748円)

調整保険料還付金	8千円(1円)
営繕費	83万2千円(107円)
財政調整事業拠出金	5,935万2千円(7,640円)

その他 321万2千円(413円)
連合会費など。

保健事業費 8,175万8千円(10,524円)
みなさんの健康づくりに役立てていただくための事業を賄う費用。
保険料収入の2.1%に相当

納付金 19億9,180万円(256,378円)
高齢者医療を支えるための財源として健保組合が負担しなければならない費用。
保険料収入の50.3%に相当

保険給付費 20億5,114万円(264,016円)
みなさんが受けた医療や、出産、死亡、休業に対する給付を賄う費用。
保険料収入の51.8%に相当

事務費 1,212万9千円(1,561円)
健保組合の事務費用。

決算基礎数値

被保険者数		7,769人
平均標準報酬月額		371,245円
保険料率	事業主	52.25/1000
	被保険者	35.75/1000
	合　計	88.00/1000

決算のポイント

▼保険料は9000万円の減収

保険料収入は、被保険者数や平均標準報酬月額、総標準賞与額が前年度を下回ったため、前年度比9180万4千円の減収となりました。

▼保険給付費は減少、納付金は大幅増加

保険給付費のうち、法定給付費が前年度より減少し、総額で477万4千円の減少となりました。

また、納付金では、65から74歳の医療費の財源となる前期高齢者納付金が前年度より2億5656万5千円増加したことなどにより、総額で2億2613万4千円の増加となりました。

▼2年ぶりの経常赤字

保険給付費は減少したものの、保険料収入は減収し、納付金が大幅に増加したため、健康保険組合の実質的な財政状況を示す経常収支では1億6010万2千円の赤字となりました。経常赤字は26年度決算以来、2年ぶりです。

なお、総収支差引では1億9417万5千円の残金が生じたため、翌年度への繰り越しや積立金に積み立てるなどして処分しました。

▼健保財政はより厳しい状況に

29年度に後期高齢者支援金の算出方法が全面総報酬割に移行し、さらに8月からは介護納付金にも総報酬割が導入され、健保組合を取り巻く財政状況はよりいっそう厳しくなると予測されます。

当組合では、財政の健全化を図りつつ、みなさんの健康を守る各種健診事業を効率的かつ効果的に実施してまいりますので、積極的にご活用いただき、健康の保持増進に努めていただきますよう、お願いします。

平成28年度決算●介護保険

収入

介護保険収入	3億8,726万1千円
合　計	3億8,726万1千円

支出

介護納付金	3億6,877万5千円
介護保険料還付金	5万円
合　計	3億6,882万5千円

収支差引額 1,843万6千円

決算残金は、すべて法定準備金に積み立てました。

決算基礎数値

徴収対象第2号被保険者数		3,881人
平均標準報酬月額		413,781円
保険料率	事業主	7.5/1000
	被保険者	7.5/1000
	合　計	15.0/1000